

(別紙1)

自己評価及び外部評価結果
作成日

平成23年1月31日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770108963		
法人名	社会福祉法人 野田福祉会		
事業所名	ハーモニープラザ		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府堺市東区南野田35番地		
自己評価作成日	平成23年1月31日	評価結果市町村受理日	平成23年7月29日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	(基本情報リンク先URLを記入)
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 カロア
所在地	大阪市天王寺区堀越町1-1 四天王寺堀越ビル
訪問調査日	H23年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「あたりまえの生活を守る」を理念とし、ひとりひとりの好み・習慣・こだわりを守ることにこだわっています

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

グループホーム独自の『あたりまえの生活を守る』を理念とし、利用者一人一人に合わせた支援がされています。入居時、家族に『今までの人生』というシートを作成してもらい、本人の生活歴や習慣、思いを把握するように努め、日々の関わりにおいても利用者一人一人の好み・習慣・こだわりを大切に支援されています。家族との関係も面会時に積極的に声を掛け近況を伝えたり、面会にこられない家族には電話で伝えるなど相談しやすい関係づくりがされています。ターミナルケアにも積極的に取り組み、家族・医師・職員間で話し合いを行い、本人及び家族が希望するときには最後まで自然な形で生活が送れるように支援されています。職員間にも『あたりまえの生活を守る』という理念が浸透し、利用者が家で暮らしてきた時と同じような生活が送れるよう、家庭的な雰囲気の中、支援がされています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「あたりまえの生活を守る」を理念とし、ひとりひとりの好み・習慣・こだわりを守ることにこだわっています。	「あたりまえの生活を守る」という事業所独自の理念が職員全体で話し合わせ、利用者一人一人に合わせた個別の対応がされています。	地域密着型サービスとして地域との関わりについての内容が加えられた理念を作り上げていくことを期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの保育園の4歳児さんが、1～2ヶ月に1回訪問してくれます。それ以外には積極的には行えていません。	近隣にある保育園や小学校で音楽会やひな祭り会などの行事がある時は参加されていますが、利用者の重度化に伴い、外出の頻度が少なくなっています。	地域の活動に参加したり、事業所内に近隣の人が立ち寄れるようにしたりと地域と積極的に関わりを持つことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族介護者向けの講演の依頼などには応じているが、積極的には行えていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており、現在の状況、行事、事故などの報告をしています。	2ヶ月に1回開催され、行事や入退居者の状況、事故報告や評価への取り組みについてなどの話し合いがあり運営に活かされています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	地域包括支援センターとはいつでも連絡がとりあえるような関係ができています。	役所に行く機会があり、その都度事業所内の近況報告を行っています。また、役所に顔馴染み職員がおり相談しやすい環境にあります。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	玄関は施錠しています。	ホーム内では窓の開閉やベランダへの出入りを自由に行えます。ただ、玄関は家人からの要望もあり、また運営推進会議で話し合われた結果、施錠された状態になっています。	鍵をかけない暮らしの大切さを職員及び家族と話し合い、職員の配置状況などから鍵をかけないようにし、徐々にその時間が増えるような取組みがされることを期待します。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の内部研修を行い、小さなことが虐待に発展してしまわないよう、腹が立つ気持ちをひとりで抱え込まないように、お互い気をつけています。		

8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な場合には、役所や関係機関と連携を取り合い、成年後見制度の利用につながるように支援しています。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明し、不安や疑問は気軽に口にしているようにしているつもりですが、家族にとって十分かどうかは自信がありません。		
10	6 ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	それぞれの家族とは密に関係を作っているつもりですが、特に機会は設けていません。	開催には至っていませんが、家族会の開催を家族に呼びかけたり、普段から面会時や電話等で近況を伝え意見を言いやすい雰囲気づくりがされています。	
11	7 ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	意見や提案を実現できるよう、できるかぎりサポートしています。	ブラザ会議を1ヶ月に1度開催し、運営に関して職員で話し合いがされています。又、普段から管理者は職員の意見を聞き、すぐに意見を運営に取り入れています。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に人事考課を行い、上司との面接で話ができる機会がある。		
13	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている			

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からの相談から始まる形が多いので、入所についての本人の不安や要望を聴くことはほとんどなく、本人が十分納得の上で入所に至ることもほとんどありません。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自分の気持ちを表現しにくい利用者が多いので、できるだけ家族の話をじっくり聴くようにしているが、満足されているかどうかは自信がありません。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる限り、そのようにありたいと思っています。		
19		○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	築いているつもりですが、家族にとっては十分でないかもしれません。		
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	仕事仲間や近所の方の訪問が継続的にあります。	入居時に家族に「これまでの人生シート」を記入してもらい、利用者ごとの生活暦を把握し、近隣の方や仕事仲間などの訪問を積極的に受け入れるなど関係継続の支援がされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	険悪な雰囲気の際には介入しますが、それ以外はその時々に合わせています。		
		○関係を断ち切らない取組み			

22	サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じてできることをしています。		
----	--	--------------------	--	--

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や思いを表現することが難しい方が多いので、想像して行っていることが多いです。	家族に記入してもらった「これまでの人生シート」により本人の生活歴や思いを把握しています。また、日々のかかわりの中から状態の変化の把握に努め、利用者一人一人に合わせた生活の支援がされています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	家族に協力してもらっています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は作成していますが、家族との相談はできていません。	職員間で意見交換を行い、「ありのままの生活を守る」という理念に基づき介護計画が作成されています。その計画を家族に報告し、その際意見をもらっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に記入しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、皮膚科、歯科の往診があります。同法人に診療所があり、入所前のかかりつけ医に受診していただくこともできます。	本人や家族の希望する医療機関で受診や往診が受けられるように支援されています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	同法人の診療所の看護師と連携しています。体調の変化や家族の希望なども伝えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	本人や家族に希望を伺っているが、実際に希望する病院が受け入れてくれることは難しい。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日常の中で家族と話し、それをスタッフに伝えていきます。状態や家族の思いがそれぞれなので、マニュアルは作成していません。	重度化した場合や、終末期の在り方について、入所時から説明や希望を聞き、病院やかかりつけ医との連携を図りながら支援されており、数人看取の実績があります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、夜間想定での避難訓練を行っています。地震の時に自分がそう行動すればいいのかがわかるように、常に掲示しています。	年に2回、昼夜想定での避難訓練を実施しています。いざという時に同敷地内にある施設職員が駆けつけてくれるように連携が図られています。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	方言で話しかけた り、家族関係に応じ て声のかけ方を工夫 しています。言葉に よる拘束が行われな いよう気をつけてい ます。	1人1人の言葉掛け を大切にし、制止す る様な声かけをしな いよう言葉の内容や 語調にも配慮してい ます。また研修にも 取り組み、職員の意 識付けがなされてい ます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望 を表したり、自己決定できるように 働きかけている	わがままに暮らして もらえるようにして いるつもりですが、 十分ではないかもし れません。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先する のではなく、一人ひとりのペースを 大切にし、その日をどのように過ご したいか、希望にそって支援してい る	スタッフのペースに なっていることが多 いです。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃ れができるように支援している			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、 一人ひとりの好みや力を活かしながら、 利用者と職員と一緒に準備や食 事、片付けをしている	一緒にはできていま せん。好きなものが なるべく食べられる ようにしています。	食事の配膳下膳や テーブル拭き等出来 ることは職員と一緒 に行なっています。 朝はホームベーカ リーでパンを焼き、 ご飯等好きな物を食 べられるように、又 ご利用者の起床時間 のペースに合わせて 提供されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量 が一日を通じて確保できるよう、一 人ひとりの状態や力、集会に応じた 支援をしている	ケース記録に食事 量、水分摂取量を記 入し、確認しなが ら、補食・水補して います。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよ う、毎食後、一人ひとりの口腔状態 や本人の力に応じた口腔ケアをして いる	だいたいできている と思います。		

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	だいたいできていると思います。	個別の排泄チェック表を作り利用者1人1人の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を大切にしたい支援が行なわれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	だいたいできていると思います。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	少なくとも2日に1回は入浴していただきます。が、時間はほとんどスタッフが決めてしまっています。	入浴は2日に1回を目安に対応しています。個人の希望を尊重して1日中いつでも入浴できる体制を整えておりお誘いした時に気持ちの悪い方には無理強いないで、時間を置いて対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、就寝時刻などの決まりはないが、ほぼ全員が臥床離床に介助が必要なので、スタッフに合わせてもらっていることが多い。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ほとんどできていない		

49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>初詣やお花見、遠足などに家族を誘って一緒に行ってもらうようにしています。</p>	<p>日常的に買い物に出かけています。希望により、散歩に行きたい方には、職員がいつでも何回でも散歩できる体制を整えておられます。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>具体的な支援はできていません。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話をかけたい時にはかけられるようにしていますが、それ以外はできていません。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>壁面装飾程度です。</p>	<p>共用の空間はゆとりある間取りで、利用者がそれぞれに穏やかに過ごされています。玄関の棚に雛人形が置かれ、春の季節を感じる事ができるようにされていました。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>			
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>だいたいできていると思います。</p>	<p>居室には、今まで使い慣れたものや好みのもを持ちこみ、居心地よく過ごせるように支援されています。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>			

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない